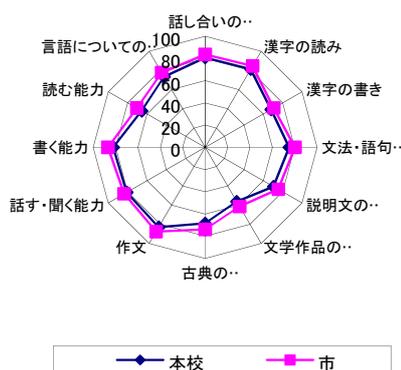


# 宇都宮市立陽東中学校 第3学年【国語】問題の内容別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
問題の内容別	話し合いの内容の聞き取り	80.9	83.7
	漢字の読み	81.4	84.7
	漢字の書き	68.1	70.9
	文法・語句に関する知識	75.1	80.3
	説明文の内容の読み取り	70.6	75.5
	文学作品の内容の読み取り	56.4	61.6
	古典の内容の読み取り	68.3	73.9
	作文	83.0	87.7
観点別	話す・聞く能力	80.9	83.7
	書く能力	82.1	86.9
	読む能力	65.5	70.6
	言語についての知識・理解・技能	73.4	77.6



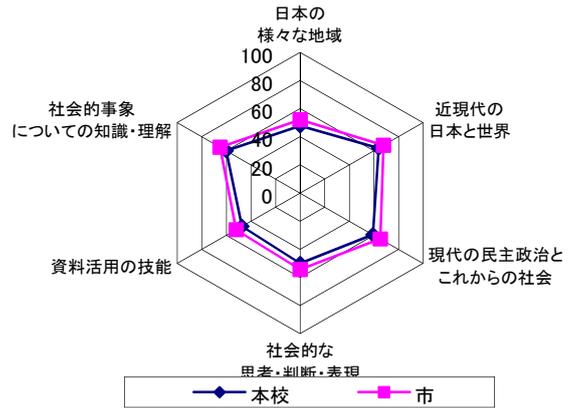
## ★指導の工夫と改善

問題の内容	本年度の状況	今後の指導の重点
話し合いの内容の聞き取り	・市全体の平均と比べ2.6ポイント下回っている。設問分析をすると、話の内容を正確に捉えたり、話し合いの工夫を聞き取ったりする設問において比較的大きく市全体を下回っているものの、話し合いの展開を捉え、自分の考えをまとめる設問では市全体との差が小さい。さらに、自分の考えを持つことについては全国正答率を5.0ポイント上回っていることが分かる。	・2年次の同調査とは問題領域の設定に差異があるので単純比較はできないが、昨年度の「音声言語領域」における校内正答率が市全体を3.2ポイント下回っていたことから、やや改善されたといえる。市全体と僅差であった、話し合いの展開をとらえて自分の考えを持つことについての能力をさらに引き立て、そこに正確さと工夫とが加わることによって話し合い活動がより充実することを実感できるような授業の展開を図りたい。
漢字	・読み・書きともに市全体の平均を下回っているものの、2年次の同調査では「読み」「書き」をあわせて「漢字」の問題領域で市全体の平均を3.6ポイント下回っていたものが、今年度調査では「読み」で3.3ポイント、「書き」で2.8ポイントと幾分の改善が見られる。また、「読み」「書き」とともに、設問によっては全国平均の正答率を上回っているものもある。	・全国平均を上回っている設問は「免除」「欺く」の読みおよび「制限」の書きである。いずれも入試頻出の漢字として取り上げられることが多いものであり、授業時間ごとに行っている入試漢字の対策プリントやミニテストが功を奏しているとも見取れる。漢字については、入試対策そのものが常用漢字の習得にもつながっていくことから、将来にわたって日常の言語生活の要をなすものとしてより一層の定着を図っていききたい。
文法・語句に関する知識	・市全体の平均を5.2ポイント下回っている。設問分析すると、慣用句・四字熟語・熟語の構成など、3年次にも取り扱ったことに関する設問では、それぞれ全国平均を5.5～15.4ポイント上回っている。一方で2年次の既習事項である、文法に関する設問で全国・市の平均正答率を大きく下回っていることが、この項目全体で市全体の平均を下回る原因となっていることが見て取れる。	・文法的事項の学習は2年次まででそのほとんどを完成させることになっているため、その重要性や有用性を体得できるような授業の展開が求められる。また、3年次にも適宜復習を行えるような課題および活動を取り入れ、既習事項の定着を図るような工夫がされるべきである。文法的事項は体系的な学習となっているため、既習事項の定着こそが次に学ぶ内容の土台となることを、授業者・学習者ともに共通理解しておく必要がある。
説明文の内容の読み取り	・市全体の平均を4.9ポイント下回っている。解答類型別に分析すると、不正解率の高さより、無回答率の高さが気になる。この傾向は記述問題で特に顕著で、このことも影響して記述式の設問では全国平均の正答率をも下回っている。出題内容を分析すると、文章のあらすじや展開をつかむ設問では比較的正答率が高く、文章の要旨や精読を伴う設問での正答率の低さがうかがえる。	・「話し合いの内容の聞き取り」と同様に、文章全体を大まかにつかむ設問については、市全体の平均正答率と比較しても遜色ないことから、あらすじや展開の理解については自信を持って読み進めることに重きをおいてよいと考えられる。より読みを深め、細かいところまで精度を上げて読み取るようになる習慣が身につくような授業の展開が求められるところである。「森を見て木を見ない」という読み取りからの脱却を図ることが必要である。
文学作品の内容の読み取り	・市全体の平均を5.2ポイント下回っている。設問ごとに分析すると、文章の展開に沿って人物の心情を読み取ったり、表現の仕方に注意して文章を読んだりする設問では、全国平均を2.7～3.3ポイント上回っている。一方、場面の様子を捉える問いで全国・市の平均正答率を大きく下回っており、このことが項目全体で市全体の平均を下回る原因となっていることが見て取れる。	・「文学作品」の読み取りで、「場面の様子を理解する」という能力は「説明文」における「あらすじや展開の理解」とは異なる能力である。文学作品で取り扱われる話題は日常の生活場面と相互につながっている場合が多く、先入観を持って捉えがちであるという特徴をわきまえたうえで読解こそ求められている。作品の文言に読み取りの根拠を求めていくような読み方を意図的に行えるような精読の授業を展開するよう心がけるべきであろう。
古典の内容の読み取り	・市全体の平均を5.6ポイント下回っている。文章の主題を読み取る設問では、全国平均を1.4ポイント上回った一方、歴史的仮名遣いを答える問い、古典単語の意味を理解し内容を答える設問で全国・市の平均正答率を下回っており、項目全体で市全体の平均を下回る要因となっている。主題を捉える問いでは無回答率の多さにかかわらず全国平均を上回っている。	・基本的な古語や古典文法の理解でも無回答率が低いこと、無回答率が高いにもかかわらず全国平均の正答率を上回る設問もあったことから、古典の学習については、1・2年次の学習について、得手不得手の差が著しくなっていることが分かる。古典の解釈については2年次までの学習がその中心を占めるため、基礎・基本の徹底を図るとともに、慣れ親しむことができる課題、練習問題を多く含んだ授業の展開を計画していきたい。
作文	・市全体の平均を4.7ポイント下回っている。グラフを読み取って作文する設問であり、指定字数以上書くという条件や3段落構成で書くという条件、自分の考えを書くことがらについては、全国平均を5.7～7.8ポイント上回っている。一方で、2種類のグラフの読み取りについて、論理の展開を工夫しながら話題にすることで市の平均正答率を大きく下回っていることがわかる。	・全体の傾向としては、作文を書くことや自分の考えを書くことについての抵抗は少ないものと考えられるが、グラフから読み取ったことを文章中に適切な用い方で取り上げることについて、生徒によって得意不得意の差が見受けられる。2つのグラフの片方のみを重点的に扱った例や、グラフの取り上げ方とそれに基づき意見がかけあみ合っていない例など、個々の能力差があるため、個に応じた作文指導の工夫を行って行きたい。

# 宇都宮市立陽東中学校 第3学年【社会】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	日本の様々な地域	47.8	52.1
	近現代の日本と世界	63.9	67.8
	現代の民主政治とこれからの社会	59.2	65.2
観点別	社会的な思考・判断・表現	50.1	54.3
	資料活用 of 技能	47.4	52.1
	社会的な事象についての知識・理解	60.2	65.2



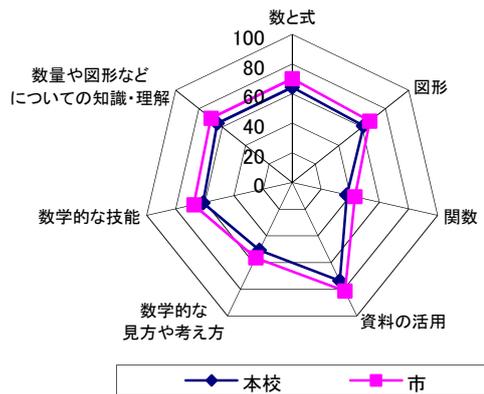
## ★指導の工夫と改善

領域		本年度の状況	今後の指導の重点
地理	日本の様々な地域	・総合的に全国や宇都宮市の平均よりも若干下回った。漁業や工業などの個別の問題は全国平均よりも高かったが、産業別の人口割合についてや貿易に関するグラフを読み取る問いは市と全国の平均ともに下回った。	・グラフや統計資料などを積極的に活用し、知識に頼らない総合力の向上を目指した授業を行い、総合力を高めた指導を目指していく。
歴史	近現代の日本と世界	・全体的に全国平均を上回ったが、宇都宮市の正答率とほぼ同じかそれよりも若干下回った。明治時代や第二次世界大戦後の日本の歩みでは経済や歴史的な事象については正答率が高かったが、政治(自由民権運動)については全国、宇都宮市ともに下回った。	・今後も歴史的な事象についての知識・理解のみではなく、時代の流れや背景などを考えさせ、その中で思考力や判断力が身に付くような授業の工夫を目指す。
公民	現代の民主政治とこれからの社会	・憲法と人権、選挙のしくみ、日本の政治のしくみのすべての分野において、宇都宮市と全国の平均を若干下回った。特に公共の福祉を説明する問いに関しては大きく下回る結果となった。	・公民に対する苦手意識の克服のため、図や表などの視覚的資料を多用し、社会的な事象についての知識や理解に偏らない授業の工夫を目指す。また模擬選挙を取り入れた授業などを行い、生徒の興味・関心を高める。

# 宇都宮市立陽東中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	数と式	64.2	70.1
	図形	61.1	66.4
	関数	37.5	43.0
	資料の活用	73.5	81.4
観点別	数学的な見方や考え方	50.6	56.4
	数学的な技能	61.2	67.5
	数量や図形などについての知識・理解	64.1	69.6



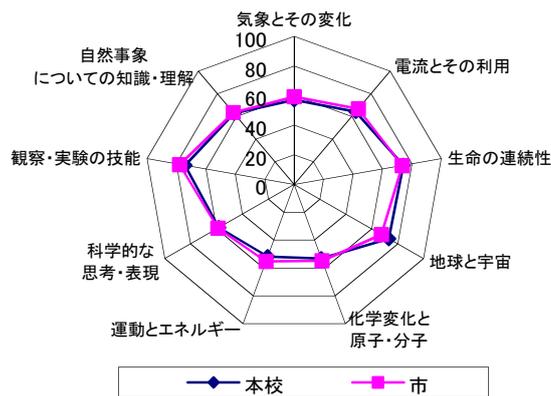
## ★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	<p>・市の正答率と比べて5.9ポイント低く、内容分析においてもすべての問題で市の正答率を下回っている。全国正答率と比べると、「乗法公式を使った因数分解」が0.6ポイント、「解の公式を使って2次方程式を解く問題」が8.5ポイント、「2次方程式の解の意味の理解」が1.9ポイント上回っていることがわかる。多項式の展開や平方根の計算などで学習内容を定着させるための反復練習や復習不足が原因と考えられる。</p>	<p>・正・負の数や文字式の計算を速く正確にできる力が、この分野の学習では必要になってくる。その力が十分でない生徒がここでつまずきやすいので、反復練習を多く取り組ませてより確実に解けるように指導したい。</p> <p>・平方根や根号の意味が理解しにくいので、正方形の面積を利用して具体物から記号化への移行を丁寧に扱い、根号の定義や性質の定着を問題練習を通して確実なものにしていきたい。</p>
図形	<p>・市の正答率と比べて5.3ポイント低く、内容分析においてもすべての問題で市の正答率を下回っている。全国正答率と比べると、「図形の性質と証明」の4問全てで3～5.5ポイント上回っていることがわかる。証明の記述では正答率が50%を下回る問題もあり、証明の記述を苦手としている傾向が見られる。</p>	<p>・三角形の相似の証明については、辺の長さに関する条件がない場合は「2組の角がそれぞれ等しい」という条件が多く用いられることを押さえ、等しい角がないかを考えさせることで解決に導かせたい。</p> <p>・図形の性質を操作活動を通してしっかり理解させ、問題に与えられている条件を整理して必要な辺や角を見極める力を問題練習を通して身につけさせたい。</p>
関数	<p>・市の正答率と比べて5.5ポイント低く、内容分析においてもすべての問題で市の正答率を下回っている。全国正答率と比べると、「<math>\chi</math>の2乗に比例する関数の活用」の4問全てが0.9～1.6ポイント上回っていることがわかる。しかし、関数の活用に関する分野は全国的に正答率が30%より低く、本校の生徒にとっても苦手な分野となっている。</p>	<p>・2乗に比例する関数のグラフの読み取りは概ね良好である。2乗に比例する関数の変域については、グラフの形状と<math>x</math>の変域の関係を把握させ、特に、<math>x=0</math>を含むときと含まないときの違いに注目させて<math>y</math>の変域を考えるように指導したい。</p> <p>・関数の学習では苦手意識が強い生徒が多いので、なるべく具体的事象を使って考察させ、基本事項を問題練習等で定着させたい。</p>
資料の活用	<p>・市の正答率と比べて5.9ポイント低く、内容分析においてもすべての問題で市の正答率を下回っている。全国正答率と比べると、「袋の中から玉を取り出す問題」が5.1ポイント上回っていることがわかる。確率の計算の仕方がわかっている生徒が多いようなので、場合の数をもれなく数えられるようになればかなり正答率が上がると思われる。</p>	<p>・確率を求めるときには、起こりうるすべての場合の数をもれなく数えることが大切なので、練習問題を繰り返し行い、確実に数えられるように指導したい。また、様々な場面の問題を考えさせることを通して、それぞれの解法を定着させたい。</p>

# 宇都宮市立陽東中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	気象とその変化	57.1	59.4
	電流とその利用	64.3	66.9
	生命の連続性	74.2	73.6
	地球と宇宙	73.2	67.4
	化学変化と原子・分子	53.2	54.6
	運動とエネルギー	51.8	55.1
	科学的な思考・表現	58.2	58.9
観点別	観察・実験の技能	74.1	77.9
	自然事象についての知識・理解	62.6	63.5



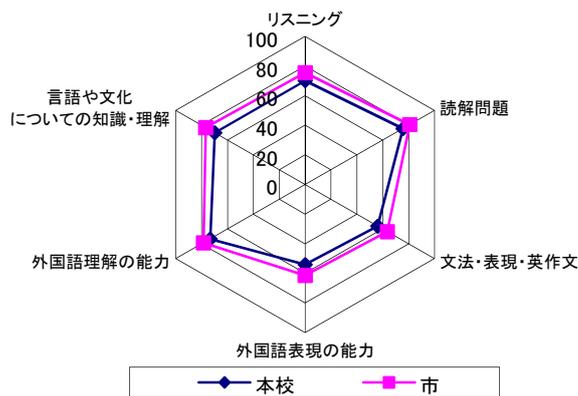
## ★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
気象とその変化	・市の平均より2.3ポイント低かった。学習内容としては「雲のでき方と水蒸気」が特に正答率が低かった。	・板書を図や表を用いて、理解しやすいように工夫していきたい。また、例題の解説を通して、解き方の基本をしっかりと身につけさせたい。この領域では特に湿度の求め方が苦手な生徒が多いため、じっくり時間をかけて理解できるように努めていきたい。
電流とその利用	・市の平均より2.6ポイント低かった。設問別正答率もすべて市の平均を下回った。本校3年生にとっては苦手な分野である。	・まず、苦手意識をなくすよう、興味をもって授業に臨めるよう導入を工夫したい。また基礎的な内容の理解が必要なので、小テスト等を行いながら、こまめに暗記させるようにしていきたい。学習内容は丁寧に説明しているので、問題演習の時間を充実させ、正解への導き方を詳しく指導していきたい。
生命の連続性	・正答率が7割を超え、市の平均より0.6ポイント高かった。本校3年生は比較的2分野が得意な生徒が多いが、この領域は計算等を要する問題が少ないため、苦手意識を持っていないものと思われる。	・本校3年生は生物分野は比較的得意としており、今回もその傾向を裏付けるものとなった。今後も丁寧な説明を心がけ、学習内容の定着を図っていききたい。さらに、難易度の高い問題にもチャレンジさせていきたい。
地球と宇宙	・正答率が7割を超え、市の平均より5.8ポイント高かった。上記同様、この領域は計算等を要する問題が少ないため、苦手意識を持っていないものと思われる。	・今後も丁寧な説明を心がけ、学習内容の定着を図っていききたい。さらに、DVD教材等も活用し、より理解を深められるよう指導していきたい。
化学変化と原子・分子	・市の平均より1.4ポイント低かった。設問別正答率ではイオン式を書く設問では市の平均を上回っている。	・原子・分子のモデルを用いて、視覚化し、化学変化のしくみを理解しやすいようにしていきたい。また、章末テストや小テスト等を通して、学習のまとめの機会を意図的につくり、しっかり覚えるべきことは覚えさせたい。
運動とエネルギー	・市の平均より3.3ポイント低く、正答率も5割程度で、領域別正答率では最低であった。物理に対する苦手意識を持っている生徒が多いと思われる。	・実験前にねらいを十分に理解させてから実験を行うようにしていきたい。また、基本的な問題の演習を通して、正解へ導くための考え方を身につけさせたい。

# 宇都宮市立陽東中学校 第3学年【英語】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	リスニング	70.2	75.5
	読解問題	75.6	80.9
	文法・表現・英作文	56.0	63.5
観点別	外国語表現の能力	54.0	61.4
	外国語理解の能力	73.5	78.7
	言語や文化についての知識・理解	70.0	76.9



## ★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
リスニング	<p>・現在の3学年が2学年のときには市の平均が93.8%に対して89.3%でその差は約5ポイントであった。今回のリスニングにおいても市の平均と約5ポイントの差が見られる。リスニングを聞き、概略を把握することはできているが、細部についての聞き取りがよくできていないようである。細部をきちんとメモを取りながら、正確に聞き取ることが身に付いていないようである。</p>	<p>・授業中に新出単語や教科書本文を聞かせるだけでなく、単語の発音を覚えさせるために、何度も発音させる機会を持たせたい。全体の練習だけでは一人ひとりの発音ができているか、確認することができないので、個別に発音させる機会も持たせたい。また、リスニングを鍛えるためにスピーキングの能力も伸ばしたい。スピーキングさせることで単語の発音に注目し、話す際にその単語がどういう発音をするか確認させていきたい。</p>
読解問題	<p>・現在の3学年が2学年のときには市の平均が80.4%に対して72.3%でその差は約8ポイントであった。今年度は市の平均に対して約5ポイントの差となっている。わずかではあるがポイントの向上が見られる。全体的には長文の内容把握を苦手とする生徒が多く、語彙の不足や、言語材料(文法)を正しく理解していないため、正確な読み取りの力に課題が見られる。</p>	<p>・語彙力の向上を目指すため、新出単語の音読を繰り返し行うようにしていきたい。必要に応じて単語の小テストなども定期的に行いたい。授業の冒頭に、前回学習した言語材料を混ぜた会話を実施し定着を図りたい。また、多くの問題に取り組ませ、様々な英文に触れさせることによって語彙力を増やすきっかけとしたい。また、教科書で扱う内容とは別に長文を読み解かせる機会を作りたい。</p>
文法・表現・英作文	<p>・現在の3学年が2学年のときには市の平均が73.9%に対して68.0%でその差は約5ポイントであった。今年度は市の平均に対して約7ポイントの差がある。市の平均も昨年度に比べ10ポイント低下している。この原因として考えられるのが、新学習指導要領において語彙数、表現の増加により、生徒にとって定着していない部分が増えた結果と考えられる。</p>	<p>・文法項目では3年生で導入した関係代名詞や現在完了が定着していないことがわかったので、用法ごとにポイントを押ささせたい。さらに、覚えることが多いので、授業冒頭での復習や次の授業時にもその復習となる時間を確保していきたい。表現や英作文の問題は今年の生徒に限らず、これを苦手とする生徒が多い。英作文させる以前の段階で、1, 2文程度の短い文を英訳させるなど、段階をおって指導を図りたい。</p>